

# Alert 50号

[通巻 432 号]  
2020年  
8月4日発行

## 第又期・反天皇制運動連絡会

野次馬日誌 \* 9 集会の真相 \* 11 学習会報告 \* 11 反天日誌 \* 12 集会情報 \* 12

マスコミじかけの天皇制 \* 49 〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その14 ●

〈8・15〉天皇儀礼は被害「受忍」の正当化と 責任の隠蔽と忘却のためのセレモニー

—— 天野恵一 \* 8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく \* 122  
●軍隊の移動と感染症の拡大——太田昌国 \* 7

状況批評 ●女性国際戦犯法廷から20年——「慰安婦」問題の真の解決を求めて——池田恵理子 \* 4  
紹介 ●2020東京オリンピック返上! 一年前反五輪国際イベント報告

「祝賀資本主義とオリンピック——ジユールズ・ボイコフ講演記録」——梶野 \* 6

今日の Alert ●「慈愛」も「威厳」もいらない! 国家による「慰靈・追悼」を許すな! —— \* 2

反天ジャーナル ●——よこやまみちふみ、映女、ななこ \* 3

高橋武智さんが、6月22日に85歳で永眠された。この悲しい報告は、彼の後見人の弁護士事務所の事務員である、スタート時点からの「反天連」メンバーだった知人という、意外な人物が連絡してくれた。亡くなられた老人ホーム「ひまわり市が尾」には、私は、結局一度も訪ねることができなかった。すぐ想起したのは「平井啓之さんの思い出——『わだつみ会』の活動を通して」のタイトルのインタビューを私は武智さんと渡辺総子さんの二人を相手に「反天連」の機関誌『象徴天皇制研究』(第3号)でしている件である。1994年8月16日の日付のあるものだ。すぐ読みなおしてみた。一世代(10年以上)以上上の彼との交流は、30年以上前、昭和天皇Xデーのドラマチックな政治過程が始まる直前から始まったのだと思う。武智さん(いつも僕らはこう呼んでいた)はその頃常に「わだつみ会」の武智さんだった

当時のその会の長老平井啓之さんとの交流も、彼が媒介役を買って出してくれることも少なくなかった。そういう関係を前提にしてのインタビューである。そこでも彼は、死につつある戦中の学徒世代の戦争体験を、自分たち「中間世代」を媒介に、私たち「全共闘」世代やそれ以降のより若い世代にどう「継承」できるのかに、こだわって発言している。

その後の「市民の意見30の会」の編集スタッフとしての私と彼の協力関係は何十年ごしで長い。隔月ニュースの会議と発送作業だから、長い間、月1回はほぼ確実に顔を合わせていたことになる。もっと、あれこれ話し協力してもらう場所をつくっておくべきだったナーと、いま、思う。あのころ、平井さんをはさんで、身近に感じていた「わだつみ会」は、やはり私にはズーッと遠い団体であった(今度の「代替わり」プロセスでは、機関誌に一本原稿を書かせていただいたが、これも武智さんが繋いだのだと思う)。

反省は、いつも、取り返せない、決定的に遅れた時間にやってくる。さようなら武智さん。

(天野恵一)



●定期購読をお願いします (送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>

●以前の情報はこちら▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

250円

今月の  
*Alert*

# 「慈愛」も「威厳」もいらない！ 国家による「慰靈・追悼」を許すな！



このコロナ禍にあって天皇の「お言葉」はなぜ出ない、といった記事は七月に入つてもボツボツではあるが続いている。その多くは、新天皇に「国民に寄り添つて」と詐しをビデオメッセージ等で表してほしいと望むものだ。メディアは天皇たちが「動けない」「動かない」ことを承知しているからこそ、「お言葉」を待望している。だが、「言葉」だけではなく、言葉通り「寄り添う」パフォーマンスがあることをよく知っている。金と「言葉」だけの傲慢とも思える演出は避けたいのではないか。一方で「民間人」同様に新型コロナ感染に怯える天皇たちがいる。天皇の肉体を前提とする制度の限界なのだ。また、天皇が動けばたくさんの人間が一緒に動く。東京から出向いた天皇とその一行が訪問先で感染源となるらしいといふ確証もない。出歩くわけにはいかないのだ。だから、そうではない形の、「国民に寄り添う」ポーズか、あるいは別の何かを模索しているというのが実態のように思う。いずれにしろそれはこの社会にとって不要、有害のものでしかないのだが。

では、天皇・皇后の動きがないかといえば、実はそうでもない。たとえば四月以降の天皇・皇后の、専門家や関係者を呼びつけて話を聞く「進講」「接見」が目立つて多い。ほとんどが新型コロナ関連だ。「視察」の代わりに専門家の報告と解説を受けていたのだ。今年に入り

新天皇に「国民に寄り添つて」と詐しをビデオメッセージ等で表してほしいと望むものだ。メディアは天皇たちが「動けない」「動かない」ことを承知しているからこそ、「お言葉」を待望している。だが、「言葉」だけではなく、言葉通り「寄り添う」パフォーマンスがあることをよく知っている。金と「言葉」だけの傲慢とも思える演出は避けたいのではないか。一方で「民間人」同様に新型コロナ感染に怯える天皇たちがいる。天皇の肉体を前提とする制度の限界なのだ。また、天皇が動けばたくさんの人間が一緒に動く。東京から出向いた天皇とその一行が訪問先で感染源となるらしいといふ確証もない。出歩くわけにはいかないのだ。だから、そうではない形の、「国民に寄り添う」ポーズか、あるいは別の何かを模索しているというのが実態のように思う。いずれにしろそれはこの社会にとって不要、有害のものでしかないのだが。

五月二〇日天皇「これからも、私たち皆が、この感染症の克服に向けて、心を一つにして力を合わせ、困難な状況を乗り越えていく」とが大切だと思います。／新型コロナウイルスと闘っている医療従事者の皆さんに、改めて心からの感謝の意を表しますとともに、皆さんには、今後ともくれぐれも体に気をつけてお仕事を続けられるよう願っています」

皇后「これまで医療活動に献身的に力を尽くしている方々、そして、その方々を支えられているご家族や周囲の方々に、陛下どもと一緒に心からのお礼の気持ちをお伝えしたいと思います」

このコロナ禍にあって天皇の「お言葉」はなぜ出ない、といった記事は七月に入つてもボツボツではあるが続いている。その多くは、新天皇に「国民に寄り添つて」と詐しをビデオメッセージ等で表してほしいと望むものだ。メディアは天皇たちが「動けない」「動かない」ことを承知しているからこそ、「お言葉」を待望している。だが、「言葉」だけではなく、言葉通り「寄り添う」パフォーマンスがあることをよく知っている。金と「言葉」だけの傲慢とも思える演出は避けたいのではないか。一方で「民間人」同様に新型コロナ感染に怯える天皇たちがいる。天皇の肉体を前提とする制度の限界なのだ。また、天皇が動けばたくさんの人間が一緒に動く。東京から出向いた天皇とその一行が訪問先で感染源となるらしいといふ確証もない。出歩くわけにはいかないのだ。だから、そうではない形の、「国民に寄り添う」ポーズか、あるいは別の何かを模索しているというのが実態のように思う。いずれにしろそれはこの社会にとって不要、有害のものでしかないのだが。

五月一〇日天皇「この度の感染症の拡大は、人類にとって大きな試練であり、我が国でも数多くの命が危険にさらされたり、多くの人々が様々な困難に直面したりしていることを深く察しています。今後、私たち皆がなお一層心を一つにして力を合わせながら、この感染症を抑え込み、現在の難しき状況を乗り越えていくことを心から願っています」

この感染症の克服に向けて、心を一つにして力を合わせ、困難な状況を乗り越えていくことが大切だと思います。／新型コロナウイルスと闘っている医療従事者の皆さんに、改めて心からの感謝の意を表しますとともに、皆さんには、今後ともくれぐれも体に気をつけてお仕事を続けられるよう願っています」

私たちはいま、国家による「慰靈・追悼」を許すな！八・一五反「靖国」行動の準備を進めている。前段集会として、八月一日には北村小夜さんを迎えて「コロナ危機と天皇制」集会を開催した。準備も参加も、それぞれの条件下でできる人がやる。無理のないところで、ぜひご参加を！

（大字）

## メタファーとヒートの戦争

## BLMから脱植民地主義へ

いなぐにじのだ

新型コロナウイルスをめぐる夥しい言説の中で、私が疑惑したのは次のような発言であった。「新型コロナに打ち勝つ」（英ジョンソン首相）。「田に見えない恐ろしい敵との闘い」（安倍首相）。「見えない敵を戦争とみなしている」（米トランプ大統領）。これらの言葉に象徴されているのは、コロナ禍を戦争状態とみなす考え方である。パンデミックと呼ばれる危機的状況に対応する勇ましい指導者の姿勢を「」に見るのは早計である。

鈴木隆一『免疫学の基本がわかる事典』（西東社、二〇一五年）を手に取ってみると、「侵入」「攻撃」「防御」といった用語が頻出していふことに気付く。

いやや、免疫学を構成するヴィジョン、あるいは世界観そのものが、外敵に対する戦争という軍事的メタファーによって成り立っているのである。免疫系の書物であるエリオー・マーチン『免疫複合』（青土社、一九九六年）にもその点が如実に描かれていた。

したがって、彼らはそれほど意識的に軍事的メタファーを用いていふのではなくそうだ。しかし、こうした言説があらゆる分野に流通し消費されているといふことは、私たちがそれだけ戦争に照らして物事を理解する方法に馴染してしまっていふところとの表れではないか。私が疑惑するのはまさにこの点である。

（よい）やま みわくふみ）

の町で、米ミネアポリスでの「トロイドやるの田人警官による殺害事件をきっかけに『Black Lives Matter』運動が米国だけでなく世界中で巻き起こった

（以下、The New York Times 国際版、20・7・28）。その動きを受けて、脱植民地化を求める声が、ヨーロッパ各地で起きた。6月、英ブリストルでは、17世紀にアフリカの奴隸貿易を独占した、王立アフリカ会社幹部E・コールストン像が引き倒された。ベルギーでは、19世紀末から20世紀初頭にかけてコンゴを私有地にして、1千万人以上を殺したといわれるレオポルド2世の像が目標にされた。

植民地主義は、地球の南半分を作つただけではない。ヨーロッパと近代世界を作つたのである。奴隸貿易のもうつけはアリストル、リバール、ロンドンなどの港町を栄えさせ、奴隸制が作り出した大西洋経済が産業革命をもたらしたのだ。

レオポルド2世の像をコソボ民主主義共和国の旗で覆い、コールストン像を何千もの奴隸とされた人々が沈んだ海に投げ込むことは、西欧帝国の過去と現在、その政治的経済的な榮光が奴隸制と植民地搾取の産物であることを露々としている。

植民地史は、現在の世界の不平等と階層性を形成しており、それは次の段階、償いと回復に導く。だからこそ、ヨーロッパ内部における旧植民地の黒人移住者などへの差別問題が『Black Lives Matter』（黒人の命だつて大切）なのである。

（映女）

ほんの一部の人たちを除いて、天皇の「」などは、それでいると思う。天皇夫婦が並んでの「」オメツセージを待つていろとマスクが置かれる。でも、誰もそんなものは待つてはならない。

彼らの「公務」とされている四大行事や豪雨災害の被災地に出かけて行くようない」とは、コロナ禍のなか、当分できるとは思えない。明治・美智子夫婦の時代、あれだけの天災や人災があつても、そしてそれがどんなに迷惑なことであろうと「国民」の中に入つてはいけないと、膝をつき合わせて話をすむ」と

で彼らの象徴天皇像を確立した。徳仁・雅子夫婦は、新たな彼らの天皇像をつくつていこうとしていたであろうが、何かしらの「」とも側近が積極的ではないとの週刊誌報道もある。まあ、前例のなじことをやりたがらないのはいいの役所も同じだ。

おそらく、それをできないまま「祈る」ことしかできない生活をしていふはずだ。天皇や皇族たちは、人前に出ていて何か言つたり跪いたりして、それをマスクが垂れ流さなければいけないも当然だ。人びとは今せマジそれぢうのではないのだ。

この国が極めつきのピンハトはすれである」とは今は誰もが知っている。敵基地攻撃能力だ? 冗談言つてないで、コロナ対策早くちゃんとやりなさいよ。

（なな）

# 状況 批判

思想・状況・批判

## 女性国際戦犯法廷から20年——「慰安婦」問題の真の解決を求めて

池田恵理子

(アクティビ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam) 名誉館長)

二〇一〇年五月七日に韓国・大邱で行われた「慰安婦」被害者・李容洙さんとの記者会見には大きな衝撃を受けた。李容洙さんが長年、支えあって活動してきた仲間たち——「日本軍性奴隸制問題解決のための正義記憶連帯」(以下「正義連」)や前理事長・尹美香さんを強く批判したからだが、それは「慰安婦」問題に取り組む熱い思いが溢れてのことだった。ところが韓国の保守系メディアは彼女の発言を歪曲・悪用して、「正義連」や尹さんたちを「不正会計疑惑」などで激しくバッシングしたのである。すると日本のメディアは韓国情報をそのまま垂れ流して「正義連」叩きをやり始めた。保守系メディアばかりか、テレビ朝日やTBSなどのワイドショードラマでも、何度も長時間の特集を組んだ。それはこの機会に、「慰安婦」問題を丸ごと否定しようとするような勢いだった。何故こんなことになってしまったのだろうか。

元「慰安婦」の女性たちが名乗り出で、被害を訴え始めてから三〇年が経つが、「慰安婦」問題は一向に解決しない。二〇一五年一二月の日韓外相会談で両国政府は、日韓「合意」が成立したとして「慰安婦」問題の「最終的・不可逆的」な解決を宣言した。日本のメディアはこれで「一件落着」と報じたが、韓国では日本への不信感と反発が強まるばかりだ。日本政府は重要な被害事実も日本の法的責任も認めず、謝罪も賠償もしないからである。

日本の侵略戦争を「アジア解放の聖戦」とし、憲法改正をライフルワークと公言している安倍首相は、一九九三年に国会議員になってから一貫して「慰安婦」問題をなかつたことにしようとしてきた。彼は戦時中の日本軍・日本政府と同様に教育と報道に介入し、「慰安婦」に関する世論を自分の通りにしようと目論んでいる。そこで原点に戻り、「慰安婦」問題の歩みを今一度、振り返ってみたい。

### ● 日本軍・日本政府に封殺されてきた「慰安婦」問題

日本軍はアジア太平洋戦時中、日本兵の強かん防止と性病予防のために慰安所をアジア全域に設置したがその報道を禁じ、兵士には「慰安婦」は「戦

場へ金儲けに来た売春婦」と思い込ませた。敗戦直前には慰安所関連資料の焼却を命じて証拠を隠滅した。膨大なはずの被害者数は把握できない。戦後には、戦記や戦争文学、戦争映画にも「慰安婦」は登場するが、戦場に咲いた「あだ花」のように描かれた。

ベトナム戦争を機に戦争加害が問われ始めた一九七〇年代、「慰安婦」のルポルタージュや自伝が出版され、沖縄に残留した元「慰安婦」が報じられた。ウーマンリブ運動での問題提起もあったが、社会運動には発展しなかった。一方、韓国では一九八〇年代から「慰安婦」調査が始まり、女性運動の盛り上がりを背景に、一九九一年、金学順さんが「慰安婦」被害者として名乗り出た。これを機にアジア各国の被害者が次々と立ち上がり、日本政府に謝罪と賠償を求めて提訴した。国内では各地に支援団体が誕生して証言の聞き取りや文書資料の発掘が始まり、次第に「慰安婦」被害の全貌が見えてきた。この時期、被害女性が名乗り出た背景には、東西冷戦の終結とアジア諸国との民主化、昭和天皇の死、女性運動の高まりがあった。

対応を迫られた日本政府は二回ほど「慰安婦」調査を行い、一九九三年には河野宣房長官が「慰安婦」の強制を認めお詫びと反省の談話(河野談話)を発表した。国際社会も動き出す。九三年の国連の世界人権会議(ワイン会議)や九五年の国連の世界女性会議(北京会議)では「慰安婦」問題が焦点となり、九六年には国連人権委員のクマラスワミ報告が出た。一九九〇年の専門家委員会では日本政府に勧告を出してしいな。

こいつした状況に危機感を募らせたのが、右翼や歴史修正主義者たちだった。彼らは一九九七年版の中學歴史教科書の全てに「慰安婦」が記述されたことに慌て、「新しい歴史教科書をつくる会」や「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」(事務局長は安倍晋三議員)を結成。教科書会社への猛攻撃を始める。その結果、「慰安婦」の記述は次第に教科書から消されていった。各地の公民館や資料館が「慰安婦」関連のイベントを企画すると攻撃を

受け、展示や集会の撤去・後退を強いられた。同じようにマスメディアでも一九九〇年代前半には「慰安婦」報道は急増したが、一九九七年以降は急速に下火になった。ニュースでは取り上げても、ドキュメンタリーや調査報道が激減した。「ファシズム政権は教育とメディアを管理・統制して、国民をマインドコントロールする」と言われるが、日本でも教育と報道から「慰安婦」が消されていったのである。

### ●二〇〇〇年に実現した「女性国際戦犯法廷」

このような動きの中で、「慰安婦」被害者が日本政府を訴えた一〇件の裁判は順次、結審していく。そのうち八件の判決で事実認定はされたが、国家無答責や除斥期間、一国間の平和条約などを理由に原告の請求は棄却された。相次ぐ敗訴で悲嘆にくれる被害者を前に、加害国・日本の女たちは何をすべきかの模索が始まった。そして一九九八年、元朝日新聞記者で女性運動家の松井やよりさん（VAWW-NETジャパン代表）が「女性国際戦犯法廷」（以下、「女性法廷」）を思うつぶし。「慰安婦」制度の実態とその責任者を明らかにする民衆法廷を提案したのだ。これは日本でも各国の被害者や支援団体、法律家たちからも支持され、二〇〇〇年の開催が決まった。国際実行委員会が組織され、「法廷憲章」や首席検事、判事団が決まり、各國検事団は起訴状作成に取りかかった。

二〇〇〇年一二月八日に開廷した「女性法廷」には八カ国の被害女性六四人をはじめ、世界三〇カ国から連日一二三〇〇人の傍聴者が詰めかけた。一二月一二日、昭和天皇に「有罪」、日本政府には國家責任ありとする「判決」が下された時、被害女性たちは「正義は私たちを見捨てなかった」と歓喜した。これを海外メディア九五社二〇〇人の記者がトップニュースで報じたが、日本メディアは四八社一〇五人が取材に来ていたものの、その扱いは極めて小さかつた。

そればかりかNHKの「E+TV2001」は、「女性法廷」に否定的で支離滅裂な番組を放送した。これに対して主催団体がNHKを提訴したところ、

東京高裁で審理中の二〇〇五年にNHK職員の内部告発によって、放送直前に安倍晋三官房副長官（当時）らの政治介入で番組が改竄されたことが暴露された。東京高裁では原告勝訴、最高裁ではお粗末な判決で原告敗訴となり、NHKは政治介入の事実を認めず検証番組も作っていない。しかし、「慰安婦」問題をなかつたことにしたいた政治家と、それに屈したメディアの実態が暴露

された意義は大きく、戦後の放送史に残る大事件になつた。

### ●「女性国際戦犯法廷」の意義とその継承

二〇〇六年から始まつた第一次安倍政権以降、政権による報道支配は強まる一方だ。二〇一二年には首相の「お友達」が四人もNHKの経営委員になり、NHKの「アベチャンネル化」が進んだ。深刻なのは、こうした傾向が報道全体に及んだことである。政権による世論誘導は容易となり、今の日本の惨憺たる状況を作り出していくと言えよう。

しかし、「女性法廷」が国際社会と世界の女性運動に与えた影響は大きい。東京裁判でも裁けなかつた天皇の戦争責任と植民地支配責任を明らかにしたのは、画期的だつた。この判決は二〇〇一年の国連・クマラスワミ報告書や、一〇二〇条約適用専門家委員会の所見にも引用され、国際刑事裁判所（ICC）規定にも影響を与えた。二〇一〇年にはグアテマラやビルマで先住民族女性への性暴力を裁く民衆法廷が開かれ、旧ユーゴやアフガンの女性たちの模索も始まつた。

「女性法廷」を実現した日本の女たちは、発案者の松井やよりさんの遺志を継いで、二〇〇五年にアクティイブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）を創設した。ここは日本で唯一の「慰安婦」資料館で、関連資料の収集・保存・公開をしながら講演会や上映会、連帯行動なども行なう。アジア各地の「慰安婦」資料館への支援や情報提供とともに、「慰安婦」パネルを翻訳して欧州やアジア諸国での巡回・展示もやつてきた。二〇一六年には、日本を含むアジアハカ国（アゼルバイジャン、トルコ、ウズベキスタン）の民間団体で「日本軍『慰安婦』の声」をユネスコの世界記憶遺産に登録申請したが、日本政府による妨害と圧力で未だ保留にされている。このような活動をしているwamは右派のターゲットにされ、開館当初から嫌がらせや攻撃を受けてきた。ヘイトスピーチの「在特会」の一団に侵入されそうになつたり、「朝日赤報隊」を名乗る者から一度にわたつて爆破予告の脅迫状を送りつけられたこともある。

私たちは歴史を修正し抹殺しようとする者たちとの闘いを強いられているが、彼らの陰謀と暴力に屈するわけにはいかない。高齢に達した被害女性たちはわずかとなり、残された時間は限られている。彼女たちが生きている間に日本政府を問題解決に向かわせるのは、私たちの責務である。そして「慰安婦」問題を知る機会を持つなかつた若い世代のために、被害女性の証言と闘いの記録を確実に継承していくかなければならないのである。



## 2020東京オリンピック返上！一年前反五輪国際イベント報告 —ジユールズ・ボイコフ講演記録—

「口ナ禍により一年延期が決定された東京オリンピックだが、来年開催できるかどうか非常に怪しい情勢になってしまった。とにかく、そもそも今年一月末から一月初めにかけて、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックが明らかになった時点で、開催中止を決定するべきであった。「完全な形での開催」に固執し続けた日本政府、日本オリンピック委員会（JOC）、東京都による、感染拡大の隠蔽、過小に見せかける情報操作等により、感染対策が遅らされ被害が拡大したことは明らかであった。

この期に及んで、まだ、来年の開催をあきらめていないのは、オリンピック開催が、それにかかる組織（JOCや東京都）や企業（ゼネコンや電通、デベロッパー等）、スポーツ関連団体にとって、いかに「おこしい」ものであるかを証明してくる。その一方で、たまごまな「災害」をまき散らしていくJOC。



催：FO研究会）におかげジユールズ・ボイコフ（Jules Boykoff）さんの講演記録を中心に構成されました。

ボイコフさんは、一の70年生まれで、パシフィック大学政治学教授。元プロサッカー選手でもあり、バルセロナ五輪の米国代表メンバーとしてブラジル戦やソ連戦などの国際試合に出場した経験をもつ。著書『オリンピック秘史・120年の覇権と利権』（早川書房）などでオリンピック批判を精力的に展開してきました。

今回の講演では、オリンピックの歴史を振り返り、「祝賀資本主義」という視点からオリンピックの招致・開催を丁寧にわかりやすく批判している。オリンピックの問題点の本質を短時間で理解するにはもってい

この内容でねえ。  
本パンフレットは、他に、同シンポジウムにむけられ、こわむりみたいさんの「Tokyo Olympic 2020」と題する、新国立競技場建設などで再開発が展開された明治公園等での野宿者追いで行われた「Teach-in for Tokyo Olympics researchers and journalists」にむけた井谷聰子さん（関西大学）の報知「THE//」にて視点によるオリンピック批判について、また、「おことわリンク 一年前企画フォトレポート」も収録されている（ボイコフさんと井谷さんの講演は英文も収録）。ぜひ購読ください。  
なお、おこじねっこでは、本来予定されていた開会式の前日（7月3日）に「中止一択！東京五輪」と題した集会を開催した（集会の真相）参考照。集会には、ボイコフさんがビデオメッセージを寄せてくれている。集会記録（動画）はおこじねっこのWEBサイト (<http://www.2020okotowa.link/>) にアップされていますので、ぜひお読みください。  
(梶野／「オリンピック災害」おこじねっこ連絡会)

判型：B5判・6ページ  
価格：500円  
編集・発行：「オリンピック災害」おこじねっこ連絡会、2020年7月24日  
連絡先：info@2020okotowa.link

# 太田昌国 の夢は夜ひらく 122

みたび



新型コロナウイルスが私たちに問いかけてくる数多い課題の中には、自先の対応策に追われている時には見逃しやすいが、けつこう本質的なものだと思わせられるものがある。私がこのかん関心を持つてているのは、「軍隊・戦争と感染症」の関係についてである。ご多聞に漏れぬ俄か勉強で、第一次世界大戦末期の一九一八年に流行が始まったインフルエンザがこの戦争に及ぼした「影響力」の強さを遅ればせながら思い知った。日々の軍隊生活の密室性、航空機が初めて戦闘に参加したとはいえ当時の戦争では当たり前だつた壘壕戦での「密」、戦況に準じて移動・転戦する兵士に付き添つて移動する感染症、国を挙げての総力戦であればあるほど、戦場・兵士が移動する地域空間・兵士が鰐集する基地・師団の位置と民間人の生活圏との近接性——さまざまな角度から見て、その関係は、敢えて使えば「親密圏」なるものを形成していることができる。ウイルスは、人間同士の間に「親密圏」を媒介にしてこそ、生き延びる。非武装の民間人からすれば、「国家社会のために武装」し、「死を賭して生る」兵士は、その時代の価値観の中で、「仰ぎ見る」存在であり、自らを存在論的に下位だと思い込まされるに至る。だから「親密圏」

とはいっても、本来ならその関係性は、「挙国一致体制」の確立を目指す為政者によつて政策的かつ意図的に形づくられるという意味で「一方的」なものでしかない。

ウイルスの、古の時代における出現も新たなる出現も、過去から現在に至る人間の自然征服史を前提としている。この本質を見なければ、今回のコロナ禍を戦争に譬える物言いや、内戦下の地域での「コロナ停戦」という知恵に、思わず納得したりすることになる。だが、私なら「足飛び」に、かくまで人間社会を攪乱するに長けたウイルスによる感染症に賢く向き合つたためにも、遅きに失した恨みは残るが人間による自然征服史の見直しや、戦争の廃絶の道に向けた予見的な道を探りたい、というのが本章である。

山野を焦土と化す愚か極まりない戦争もまた「自然征服」の一環と捉えて、ここでは「軍隊と感染症」の問題に絞るとして、私たちの足元で見えるとしてすぐ思い浮かぶのは、在日米軍基地における新型コロナウイルスの感染拡大である。すでに神奈川県の横須賀、厚木、キャンプ座間、京都府の京丹後、山口県の岩国などの各米軍基地での感染者の発生が報告されている。岩国基地の三人の感染者の場合は、米国から七月一二日に羽

田空港で入国し、PCR検査を受けながら結果の判明を待つことなく民間機で岩国錦帯橋空港へ移動（レンタカーで移動すると虚偽申告していた）し、岩国基地へ入ったとされている。これというのも、日本は四月三日以降米国からの入国拒否措置を講じながら、「合州国軍隊の構成員は旅券及び査証に関する日本国法令の適用から除外される」とする日米地位協定第9条が存在するからである。米国は、対日「戦勝」後七五年目を迎えていた現在もなお、さながら「日本は保護領」意識のままにいることを、私たちは改めて自覚すべきだろつ。

この矛盾が最も明白に現れているのは、もちろん、沖縄においてである。在日米軍司令部が七月二四日に公表せざるを得なくなつた基地ごとの感染者数から見ると、一八九人の感染者のうち八六・八%を沖縄駐留の米海兵隊員が占めている。従来の統計に基づけば、毎年半年ごと（多くは六月と一一月に）大規模な部隊交代が行なわれている。その数は平均五五〇〇人近いから、在沖海兵隊員の三分の一に上る。配属部隊はそれぞれ、他基地部隊との共同訓練、陸上自衛隊との合同演習、二国間・多国間演習など、日本国内のみならず広くアジア太平洋地域を舞台に軍事作戦を展開しているのである。日本を「治外法権」地域として何らの規制も受けずに、自由に移動できる米軍兵士たち。しかも、軍事機密だとの理由から、その動きは公表されない——そこに見えるのは、感染症拡大の一因だけではない。日米軍事同盟が、東アジア、ひいては世界全体の平和に対する脅威となつてゐるといつ、否定しがたい姿なのだ。

(7月31日記)

## （8・15）天皇儀礼は被害「受忍」の正当化と、 責任の隠蔽と忘却のためのセレモニー

——〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その14



天野恵

「國家による『慰靈・追悼』を許すな8・15反『靖国』行動」の私たちには、今年は八月一日に「コロナ危機と天皇制」のテーマでの講演集会、八月十五日に「反『靖国』デモ」と二つに行動をわけた。できるだけ「三密」を避けようという新型コロナウイルスの感染拡大状況への配慮が、そこにはある。

今日（七月三十日）の『朝日新聞』のトップニュースは、「国が『大雨地域』のみを線引きした結果、「黒い雨」による健康被害を受けているにもかかわらず「被爆者健康手帳の公布を受けられなかつた人々による訴訟で、広島地域が国の被爆者として援護していく対象を、できるだけ狭めてきた政策が誤っていたと認め、八四人全員の手帳の公布を命じた二九日の判決である。こんな、あたりまえの判決が出たのは、被爆（敗戦）後なんと七五年後の今なのである。「国体護持」にこだわり米国の原爆使用を引き出した天皇と国こそが直接の加害者であろう。」

80年に「戦争被害は国民が等しく耐え忍ばなければならない」という「受忍論」を公然と主張した日本政府のこの無責任行政が、少しでも変更されしていく契機になればと思う。

二九日には、核をめぐって、もう一つの大きな動きがあった。国の原子力政策の中核組織である、日本原燃六ヶ所再処理工場（青森県）について、原子力規制委員会が、安全対策の基本方針が

新規制基準に適合しているという審査書を正式決定したのである。

一九九三年に着工し、完成時期はトラブル続発で「四回延期」されているものである。そこで生まれるプルトニウム大量消費をあてこまれていた「高速炉もんじゅ」は、たちゆかず、すでに廃炉が決定している。核燃料サイクルは、全面的に破綻しているのである。「すでに建設費は二・九兆円に膨張しており、さらに七千億円を投じた安全対策工場」が進んでいると報じられている。

医療労働者の疲弊、病院の大赤字が叫ばれている中での感染者の全国拡大（はじめての一日前）感染者千人超、岩手県でも確認され、感染者ゼロの都道府県は消滅が二九日の「データである」。本当に、こんなところに金を使っている場合か。残念ながら日本の国（政府）の国民の命より原子力産業（マネー）という無責任政策の基本は、不動だ。

敗戦七五年の（8・15）を目前にして、以下のことを確認しておこう。あれだけの侵略と植民地支配を、大量の「国民」を動員して実行した、加害者である國の責任は、絶対的権威・権力として存在したヒロヒト天皇がまったく責任を取ることもなく延命したことにより象徴されるように、まともに取られる」となく、今までてしまつていの

継ぐと回転して即位し三十〇年後「生前退位」し、今の天皇は、象徴一代をたたえて「即位」しているのである。國の戦争（植民地支配）責任が、今の安倍政権と新天皇に問われ続けるのは、あたりまえである。

「國民」は戦争被害を「受忍」して、基本的に責任を問うなどといふことはあきらめろといふ無責任体質（文化）は、責任を取らずに象徴（人間）天皇にモデルチエンジした戦後の象徴天皇制がスタートした時点で、より強固にかたちづくられ、今まで連続しているのだ。

サンフランシスコ講和条約が発効し、形式的に独立国家となつた一九五二年五月一日に、早々と政府主催・天皇出席の「全國戰没者追悼式」は新宿御苑で開催された。その時の天皇の「お言葉」を引こう。

「今次の相つぐ戦のため、戦陣に死し、職域に殉じ、また非命にたおれたものは、挙げて数うべくもない。衷心その人々を悼み、その遺族を想うて、常に憂心やくが如きものがある。本日この式に臨み、これを、哀傷の念新たなるを覚え、ここに厚く追悼の意を表する」

殺し殺される侵略戦争に人々を自分の絶対の権威（権力）を使って駆り出し、自分たちの延命のために無差別殺傷兵器原爆使用を引き出し、天皇の死傷者を作り出したことにに対する責任感など、ここには一ミリも読めない。「憂心」も「哀傷」という追悼言葉も、責任の隠蔽と忘却をねりつて動員されているだけだ。三代目になつても、このセレモニーと「お言葉」の政治的欺瞞度は、高まり「そすれ、薄れる」となどありえないのだ。

象徴天皇二代目アキヒトは、先代の「偉業」を





台の親善関係、友好増進のために多大な貢献をされた」。ポンペオ米国務長官が「李氏の大胆な改革が、台湾を民主主義の道しるべに変貌させる不可欠な役割を

果たした」と評価する声明を発表。台湾にある米代表機関、米在台協会台北事務所が、半旗を掲げる。新華社電によると、中国國務院（政府）台湾事務弁公室の朱

鳳蓮・報道官が「『台湾独立』は袋小路だ」。台湾総統府が、政府機関と学校で同屯地には陸上自衛隊の総隊司令部、練馬駐屯地には第一師団が置かれている。東京五輪では、陸上自衛隊朝霞訓練場がラ

イフルやピストルの大会会場として使用される予定だ。この種目は、各国ともに軍隊警察関係者がほぼすべて。区教育委員会などは、生徒らとの「交流」イベン

トや動員を「授業」の一環としても予定。この、ど真ん中の軍隊のパブリックリレー

## 漢字の「ロード」

室において開催された。

東京都練馬区には、陸上自衛隊練馬駐屯地と、同・朝霞駐屯地があり、朝霞駐屯地には陸上自衛隊の総隊司令部、練馬駐屯地には第一師団が置かれている。東

京五輪では、陸上自衛隊朝霞訓練場がラ

イフルやピストルの大会会場として使用される予定だ。この種目は、各国ともに軍隊警察関係者がほぼすべて。区教育委員会などは、生徒らとの「交流」イベン

トや動員を「授業」の一環としても予定。この、ど真ん中の軍隊のパブリックリレー

にまみれた国や東電らのやり口を告発した。安倍は「復興五輪」を「ロナ」「克服」も結びつけるが、福島「イノベーション・コースト構想」は原発交付金のすり替えに過ぎないし、原子力「緊急事態宣言」は事故後9年を過ぎてもなお、回復

どころか除染もされておらず、廃棄物、汚染土や水が膨れ上がるばかりの現状を指摘。特定のわずかな地区のみの「除染」の怒りが胸に残った。

発言の二人目は、「2020オリンピッ

### 【学習会報告】

#### 御厨貴編著『天皇退位』何が論じられたか

——おこじょから大嘗祭まで（中公選書・2020年）

アキヒト天皇の「生前退位」を実現するのに大いに力となつた安倍首相がつくりだした「天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議」の座長代理であつた著者（実質的に、その会議をしきつた）の、大量の各論文に対するコメント付き編著である。

著者の「はじめに」をこうじつ言葉

せざつてしまつたかを、私たちがリアルに認識するには、便利な本である。

この自覚的加担者だった著者は、首相の意をも組みこんで、こんなふうに、それをうまく実現したという自慢話のトーンが

この著者のいう「終わつた戦後」とは、いいかえれば戦後憲法下の象徴天皇制理解、天皇制と民主主義・人権・平和主義は、対立的である。あるいは

復興五輪は大嘘だ！聞こえ！福島原発被災者の声

七月一日、「東京オリンピック・パラリンピック2020を問う練馬の会」による講演集会が、練馬区役所の地下会議

福島原発告訴団長でもある武藤類子さんは、事故後9年を過ぎてもなお、回復

どころか除染もされておらず、廃棄物、汚染土や水が膨れ上がるばかりの現状を指摘。特定のわずかな地区のみの「除染」の怒りが胸に残った。

追悼場を設け、1日から16日まで一般の人たちに公開すると発表。

（天野恵一）

の「はじめて」や細かく添えられたコメントを通して、全体から伝わってくるすこぶる不愉快な書物であった。

しかし、広くマス「ミ」おどつたいろんなジャンルのインテリの天皇制ヨイショ論文が広く集められている、この論文集（批判的な主張はゼロではないが）、この「代替わり」プロセスで何が実現さ

た。さて、私たちはどう対決する。この世に反天皇制運動など存在しなくなつたという認識とそれは対応している。さて、宇多川幸夫『考証 東京裁判・戦争と戦後を読み解く』（吉川弘文館・歴史文化ライブラリー）を、8月18日に読む。ご参加を。

ク災害おじいちゃんの連絡会」で、「延期」とされているこのオリパラが、それほど矛盾に満ちたイベントであるかを、さもざまな方面から説得的に展開した。さらに三人目は、これまで反貧困ネットで活動してきた瀬戸大作さん。現在、その活動に加え「新型コロナ災害緊急アクション」として対応を広げており、この日も突然の依頼で相談者保護の対応をしてきたばかりとのことで、突然仕事を奪われる形になつた多数の人びとがいる重い現実について報告された。

凶の施設のため、より「密」を意識して席数を絞りながら、六二名の参加で、発言者への支援カンパを集めることができた。会としては、これ以降も、一〇月に岡崎勝さんをお呼びしての集会などを予定している。

中止一択！東京五輪 7・23集合  
&24ナモ

東京五輪が延期になつてしなければ、本番開会式に向けて準備されるはずだった対抗アクション。おひとわリンクは延期ではなく、直ちに中止を掲げて集会デモを行つた。

一二三日の集会ではメインスピーカーに武田砂鉄さんと志葉玲さん。武田さんは五輪関係者が論拠のない言動を繰り返した対抗アクション。おひとわリンクは連絡会

に残つた。志葉さんは入管の状況は五輪決定で悪化し、被収容者の七割超が難民であり、日本政府は五輪のために難民を迫害していると指摘。入管の外国人に対する許しがたい暴力を映像を使って解説し、怒りが湧いてきた。

後半のヒテオメッセージはジコールズ・ボイコットに始まり、平昌、パリ、ロス、そして北海道からの短時間編集だったが、いずれも素逸。コロナ状況で発言を予定してじぶた谷口源太郎さんと江沢正雄さん（長野五輪反対）はメッセージに変更。福島からは「五輪やつてぶる場所ではない」と強烈な発言を黒田節子さんがつくれた。参加できなかつた方には本当に残念なぐらつ魅力の詰まつた集会だつた（コチヨーブ等で視聴可）。

一四日のデモの前にはつ〇〇前で即時中止を求める要請行動を行つた。デモ前集会では近くで「オリンピック終息宣言展」を行つてアーティストからもアピールをもらひ、一七時に出発。新国立競技場前を抜けて原宿五輪橋で解散。両日とも一〇〇名の参加。

（富嶽俊郎＝オリンピック災害おじいちゃんの連絡会）

7月12日（月）●復興五輪は大嘘だ！聞こづけ福島原発事故被災者の声（集会の真相参照）  
7月23日（木）●中止一択！東京五輪集会（集会の真相参照）

## 集合情報 IN FORMATION

7月24日（金）●中止一択！東京五輪デモ（集会の真相参照）  
8月1日（土）●反「靖国」行動前段集会「コロナ危機と天皇制」

開催中●朝鮮人「慰安婦」の声をめぐる裁判控訴審判決  
8月6日（木）●香港人靖国抗議見せしめ裁判控訴審判決  
13時～18時（月・火・休日休館）／WAM 女たちの戦争と平和資料館（地下鉄早稲田駅）／主催：同館

12時～／youtube、zoomで配信／城倉啓／主催：同集会実行委員会  
＊要申込 [https://peace815liberal211.at.webry.info/202006/article\\_1.html](https://peace815liberal211.at.webry.info/202006/article_1.html)

15時～／在日本韓国YMCA（JR水道橋駅ほか）／主催：同実行委員会  
＊要申込 (090-3438-0263)

18時～／新宿駅南口バスタ新宿駅南口バスタ前  
9月6日（日）●特別連続セミナー－朝鮮人「慰安婦」の声をきく  
15時～／Zoomで配信（会員限定）／永原陽子／主催：女たちの戦争と平和資料館（WAM）  
＊要申込 [wam@wam-peace.org](mailto:wam@wam-peace.org) 実に特別展セミナー参加として名前／会員番号を明記の上申込みを  
18時～／新宿駅南口バスタ前  
8月8日（土）●第15回キャンペーン行動平和の火を一ヤスクニの闇へ  
13時30分開場／在日本韓国YMCAs（JR水道橋駅ほか）／高橋哲哉、米須清真、武藤類子・金東椿・吳栄元ほか／主催：キヤンドル行動実行委員会（連絡先：090-4740-4608）  
＊会場等の理由により中止・延期の可能性あり。主催者への確認を。  
●このかど、少人数で苦闘を強いられていた反天連ユース作業ですが、今月は久々にフルメンバーが揃いました。その分、みんなの集中力が途切れがちになつてしまふ傾向が……。さあ、ビールだ、かな。（貌）



8月9日（日）●コロナ状況下での反戦集会／デモにいへば  
14時～／つくば市竹園交流センター／ホール（TXつくば駅からバス）／主催：戦時の現在を考える講座（090-8441-1457 加藤）

8月15日（月）●国家による「慰靈・追悼」を許すな！ 8・15反「靖国」行動  
15時～／在日本韓国YMCA（JR水道橋駅ほか）／主催：同実行委員会  
＊要申込 (090-3438-0263)



